

## 2016年国際対立紛争解決教育会議およびワークショップ

テーマ：平和・正義・安全をつらぬくつよいコミュニティをつくる

日程：2016年6月8日から6月13日

共催：オハイオ大学国際安全保障研究センター、平和学プログラム、東ヨーロッパ  
パスラブ諸国研究、John Glenn カレッジ公共政策および政治学部ほか、紛争予防  
のためのグローバルパートナーシップ (GPPAC: The Global Partnership for  
the Prevention of Armed Conflict)

オハイオ州立大学 (OSU) と GPPAC (Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict) の共催で、世界各地の学校や大学、政府、NGO、民間団体の協力を得て国際対立紛争解決教育会議がおこなわれます。これまで、2004年から13年までオハイオで、2014年と15年にはバージニアで行われてきました。世界から50カ国以上におよぶ出席者があり、領域も大学教育関係者や学生、小中高教員、青少年教育関係者、福祉やカウンセラー、司法関係者など、教育行政関係者など多岐にわたっています。国際対立紛争解決教育会議は、対立紛争解決教育に関して、学際的な研究を交流する場ともなっています。地域や自治体、国、国際的に評価の高い発表が数多くなされ、典型事例や評価方法、政策遂行について、問題の共有がなされ、あらたな教材や研修プログラムなどを学ぶ機会ともなっています。

### 大会事前(プレコンフェレンス)研修

#### 1 キング牧師による非暴力紛争解決

対人関係や集団およびコミュニティや国家間でのさまざまな課題や問題にたいして、キング牧師の非暴力運動によって、対立や紛争を解決するための基本的な知識や方法が紹介される。まず本質的な歴史的に重要な文脈を理解し、キング牧師の理論と実践がどのような歴史的な文脈でなされたかを学ぶ。次にキング牧師による非暴力に関する思想を構成する6つの原則(目標と方法、考え、力、プロセス)を押さえ、それらにもとづいて、それぞれの状況において適切な根拠となる考え方をみちびきだすことができるようにすすめる。さらに、非暴力運動をすすめる団体が、現状をよくすることができるようになるのを目的とする。ソーシャル・アクション・リサーチにより、表面的な現象のみならず、より直接的な問題をあきらかにする。

#### Presenter:

David C. Jehnsen: Bernard LaFayette との共著『指導者のためのキング牧師による非暴力マニュアル-哲学と方法』がある。

<http://www.kingiannonviolence.info/publicationslinks.html>

2 持続的対話 (Sustained Dialogue) による大学教職員や管理職、学生における関係改善-具体的なコミュニティにおける改革

学生や教職員、管理職らが持続的対話（Sustained Dialogue）をすすめることができるよう、参加者がファシリテーションのやり方を身につけ、教室での実践や、計画を立てるとともに、さまざまな視点から、より多くの関係者とともに実際に問題を解決できるように考えをだしあい（ブレイン・ストーム）ながらすすめる。民族差別や社会経済的な問題から引き起こされることや、ジェンダー、キャンパスでの慣行をめぐることがらに、根気よくとりくむことができるように、またより多くの関係者により、キャンパス具体的な知識がえら得るよう大学職員研修をすすめるための計画立案をおこなう。

**Presenters:**

Elizabeth Wuerz, Sustained Dialogue Institute (SDI)

<http://sustaineddialogue.org>

Maureen Flint

Brittany Chung, Case Western Reserve University

3 修復的实践をどのように学校ですすめるか

より肯定的な人間関係によるコミュニティが形成されるなかで、校内暴力や停学措置を減らすことが知られている。暴力行為を予防するために、また問題に迅速に対応する方策として、秩序を形成するための修復的なやり方を探求する。

コミュニティ・ビルディング・ダイアログ・サークルは、教室においてより肯定的な人間関係を醸成するやり方であり、問題を予防するための修復的实践における核心である。学校における修復的实践は、肯定的な関係づくりや、安心できる場となり、仲間意識がつくることができるか、ダイアログ・サークルのすすめ方を学ぶ。

**Presenters:**

Malene Kai Bell

Larell Smith Community Conferencing Center (CCC)

<http://www.communityconferencing.org>

4 ピース・リテラシー：人間理解のあらたなパラダイム

これまでの教育では、ピース・リテラシーは積極的にとりあげられ、教えられてこなかった。ピース・リテラシーは、1) 共通の人間性、2) 生き方、3) 平和をつくること、4) 傾聴すること、5) 現実を把握すること、6) 動物への責任、7) 創造への責任である。ピース・リテラシーは、暴力を引き起こす原因に対処し、怒りやトラウマを克服し、国内のまた国際的な課題を解決するために人間のあらゆる側面に関わる。配慮することによって、対立紛争解決のための力量を促進させ、攻撃性に効果的に対処することができるということをあきらかにし、ピース・リテラシーを学ぶカリキュラムを提示する。

**Presenters:**

Paul K. Chappell

<http://peaceliteracy.org>

Katherine R. Rowell

## Dayton International Peace Museum

5 生徒・学生の問題行動への対応：生徒の問題行動への対応として、幼児から中学生段階で、洞察力をもって対立やもめごとを激化することを防ぎ、生徒に寄り添って規律に関する決定をする

児童・生徒が授業妨害をしたり、反抗したり、指示に従わなかったり、同級生とのけんか、不登校などの教室や学校での問題行動は、何らかの脅威への防衛としてみることができる。問題行動をこのようにとらえたうえで解決策を講じる必要がある。「洞察力」から、問題解決への理論と実践へと、現実に応用できるようにする。現実に行っているコンフリクトを理解し、対処する具体的やり方を学ぶことは、教師のみならず、カウンセラーや管理職、行政職にとっても有意義である。「洞察力」は教室や学内の環境をよりよくするために、また、当事者に寄り添い支持的なやり方で停学措置を減らすことができる。

**Presenter: Megan Price**

6 効果的な平和教育プログラム開発：原理、理論、実践

以下のように平和教育の典型例と実践を GPPAC のメンバーによって提示し、参加型ワークショップにより、より広汎な関係者や関連分野での展開をはかる。

- ・ 幼稚園および小中学校での予防プログラム：対立紛争解決教育や価値教育、異文化教育、平和教育、社会情緒学習
- ・ 地域での予防プログラム：ジェンダー平等および暴力予防
- ・ 平和教育推進のための政策提言活動

社会的統合および対立・紛争解決を主とする平和教育推進のための政策、プログラム、活動を地域において推進するための典型事例を、理論と実践平和および正義、安全をめぐる問題に関して、それぞれの地域でのシナリオに描くようにする。

**Levinia Addae-Mensah**

Kofi Annan International Peacekeeping Training Centre (KAIPTC)

<http://www.kaiptc.org>

West Africa Network for Peacebuilding (WANEP)

<http://wanep.org/wanep/>

Justine Kwachu Kumche,

Women in Alternative Action Cameroon

<http://www.womeninalternativeaction.org>

<http://www.womeninalternativeaction.org/our-work/queens-for-peace-international/>

**Gary Shaw**

7 学級/教室経営のための対立紛争解決と平和構築

対立・紛争とは何かを理解し、問題解決や調停の原則、あらゆる関係者を尊重することのためにここを通わし、コミュニケーションのすすめるためには、どのようにしたらよいか。学生中心の実践を、効果的に創造しどのようにすすめるか、それぞ

れにふさわしいやり方を探求する。ロールプレイなどさまざまな活動も紹介し、よりよく学べる状況をどのようにつくることができるか、またどのように動機付けを高めることができるかに焦点をあてる。それにより、児童・生徒の学習効果も高めることの理解も促進することをあきらかにする。

**Presenters:**

**Sonya Fultz**

**Ohio Commission on Dispute Resolution and Conflict Management**

8 対立・紛争解決と平和構築概念を統合させた大学におけるカリキュラムづくり

対立・紛争解決を教えるのに他の科目で、対立・紛争解決の理論とりいれることができるようすすめる。ここでとりあげられる理論は他の多くの分野や科目でも応用可能である。自分の担当科目において、対立・紛争解決の理論や実践、応用できるようになるとよい。対立紛争解決および平和研究がどのような学問か、その概観からはいじめ、対立や紛争を理解するために分析をする枠組みを学ぶ。対立紛争解決の核となる理論にもとづいて、シラバスの見本からシラバスを策定し、実践のための手立て、評価/アセスメントについて、また教材についても検討する。

**Jennifer Batton,**

**Ohio Commission on Dispute Resolution and Conflict Management in Columbus, Ohio**

**Julie Shedd**

**Benjamin Franklin Summer Institute**

9 トラウマを踏まえた平和構築：対立紛争解決や平和構築、トラウマ研究を統合するプログラムデザインと再統合

対立紛争解決の実践および実践者の教育にあたり、トラウマの重要性が専門家によって主張されている。紛争を転換し、成長するのにトラウマへの理解が不可欠という理解は広まっておらず、現在、対立紛争解決のプログラムへトラウマに関することがあまり、とりいれられていない実状がある。また、トラウマへの対処についての具体的な手立ても持ち得ていない。これまで、長年、開発や平和構築、トラウマ研究は関わりのないものとして研究がなされ、教育や人的育成、論文の発表、それらにたいする助成も、別々になされてきている。このワークショップでは、コロンビアやリベリア、ケニヤでの最新の神経科学研究をとりあげ、トラウマに焦点をあてた統合的プログラムの事例を検討する。

**Presenters:**

**Mary Jo Harwood,**

**Prabha Sankaranarayan, Mediators Beyond Borders,**

**<http://mediatorsbeyondborders.org>**

**“Invisible Wounds”**

**Reilly, McDermott**

10 実効のある平和教育プログラム開発-アジアからの優れた事例

ここではアジアでのすぐれた平和教育のとりくみと教材や手立てを紹介する。多様性を受け入れ、不寛容や偏見などに対処するためのモジュールや活動、学生による成果も例示する。多様性のある社会において、どのように平和教育を実践するか、参加者とともに有意義な場とする。

**Presenters:**

**Loreta Castro is Program Director of the Center for Peace Education (CPE)**

**Kathy R. Matsui, Professor, Seisen University**

**Eri Somoto**

**11 平和教育における文化的感受性（センシティブティ）**

文化的感受性（センシティブティ）はより、人間関係を形成し、また楽しくするのに不可欠なものである。いずれ対人関係や国家間の争い、アイデンティティにおける葛藤を予防のためにコミュニケーションスキルは重要である。文化的感受性（センシティブティ）を学ぶために有用なカリキュラムをどのように創造するか例示する。

**Presenter:**

**Iryna Brunova-Kalisetska,**

**Integration and Development Center**

2016年6月10日（金）

基調講演およびパネル I

紛争への市民社会の責任：女性や子どもへの暴力を防止する

元カナダ外交官であり国連大使も歴任した **Mr. Louis Guay** による講演では、ニジェールでの紛争やサハラ地域では、アルカイダによってとらえられ 30 日間におよぶ人質事件における交渉では、人質の解放に尽力した。紛争に対処するための根本的な原理や、とくに近年の紛争への対処にたいする市民社会の果たす多大な責任について述べる。

引き続き、紛争下における暴力、とりわけ戦時における女性や子どもへの暴力および防止に関する論議をおこなう。

**Mr. Hans Sinn and Ms. Silke Reichrath** は、第二次世界大戦の際に、子どもたちがどのようにであったのか、また戦後、戦争について語るという活動をおこなってきた。暴力の被害者である子どもたちが経験を語ることは、こころの傷をいやすことになり、修復的正義の実現への歩みになる。シリアや世界のほかの紛争下においてもまったく同様である。紛争予防や介入において、平和構築の専門家による同様なとりくみが必要である。

非暴力平和隊のメル・ダンカン は、市民による非武装紛争予防活動の事例として、南スーダンやミンダナオで、このやり方が子どもや女性をはじめとする市民を効果的に保護したかについて述べる。

講演者およびスピーカー

### Mr. Louis Guay

元カナダ外交官、国連大使、カメルーンスクールネットワークプロジェクト代表。**Saint Paul University** 社会正義および持続可能な開発に関する講座を担当する。ラテンアメリカやアフリカ、ヨーロッパにおいて天然資源をはじめとする紛争解決にたずさわって、複雑な紛争にたいして統合的社会的責任というモデルを構想するにいたった。統合的社会的責任モデルは、政府および市民社会、企業(経済界)という3つの関係者を想定し、状況を進展させるためにそれぞれの責任を果たすことが重要であるとする。

### Mel Duncan

非暴力平和隊 **Nonviolent Peaceforce (NP)** の創設にかかわり、現在は共同代表をつとめている。また国連や、さまざまな分野で市民による非武装平和活動の推進に尽力している。**The Utne Reader** により「世界を変革する50人の活動家」とされた。**Macalester College** を卒業し、**New College of California** より修士を取得した。

### Hans Sinn

**Brooke Valley** ならびに **Silke Reichrath** は非暴力教育研究所および国際平和旅団(**Peace Brigades International:PBI**) 代表。**Hans** は核兵器廃絶運動やドイツ統合をはじめとする平和運動にたずさわって、非暴力市民保護および平和創造に貢献した。国際平和旅団の創設にかかわり、カナダ支部代表もつとめた。またカナダ市民平和活動という団体の創設および代表もつとめた。**SILKE** はグアテマラやアフガニスタンでの和平対話、また国連安全保障理事会1325決議の具体化のとりくみにメキシコとカナダにおいて尽力した。カナダピースビルディングネットワーク (**Canadian Peacebuilding Network**) 理事。

### 基調講演およびパネル II

#### 平和教育によって学校と地域、家庭をつなげる

子どもや青少年の健全育成のための環境をつくるためには、家庭や教育機関、地域機関の連携が欠かせない。**Linda Lantieri** は学校や家庭、地域で一致して平和教育を展開するための具体的な方策を紹介し、そのなかでの有用な経験を共有する。米国にひろがりを見せる **CASEL, Collaborative for Academic Social and Emotional Learning** についても紹介する。**CASEL** により学力が向上し、社会・感情的なちからも身につけることができるようになる。基調講演に引き続き、オハイオ教育局の **Jill Jackson** と、**Sandy Hook** 小学校での銃乱射事件で子どもを亡くした **Scarlett Lewis** が学校と地域、家庭での平和教育について述べる。**Jill** は安全な学校のためのガイドラインや、ハラスメント防止、オハイオ州における政策と、いじめや脅迫予防や対応策について紹介し、**Scarlett** は **Jesse Lewis Choose Love Foundation** での経験から得られた、暴力防止への展望を述べる。ポスト・トラウマティック・グロース：**PTG**：外傷後成長への種をまき、子どもたちに責任や感情的知性、人間関係を形成するよう学ぶことが、愛を選ぶという資質

につながる。いかに人びとが愛を選択し、そうする勇気を持つための示唆となる明快でちからづよい言葉を Lewis はのこしている。

**Linda Lantieri**

**CASEL (Collaboration for Academic Social and Emotional Learning)** 上級プログラムアドバイザー、修士。コロンビア大学特任講師。East Harlemにおいて、40年以上にもわたって教員や教頭、校長にたいする研修にたずさわってきた。Inner Resilience Program (内的レジリアンスプログラム)における指導者もつとめる。幼稚園から8年生への社会情緒学習プログラムに関する実証的研究をもとに、1985年には創造的対立紛争解決プログラムの設立にかかわり、現在、世界で400余りの学校で展開されているCASEL創設時から理事として尽力した。

**Jill Jackson**

オハイオ州教育局教育センターにある小学中等学校 P-20 安全保安部門顧問。オハイオにおける学校での教育環境向上に尽力し、20年にわたって、家庭や地域において教科学習外での障壁をとりのぞくようとりくくんできた。加えて、少年審判所や地域関係機関、宗教団体、教育事務所による暴力防止や介入にもとくりくみ、オハイオ州の900以上の学区で、生徒のみならず家庭や地域と連携し、早期予防のもと問題行動を減少させ、学力向上や教育環境の改善に成果をあげてきている。

**Scarlett Lewis**

**Jesse Lewis Choose Love Foundation** 創設者で、著書に **Nurturing Healing Love**。愛と生きることについて、無力感にさいなまれる状況で、最愛の子どもを失うような喪失感にいかに対処するか、怒りや恐れ、憎しみではなく、愛を選択した。コネチカット州ニュータウンで、サンディフック小学校銃撃によって死亡した息子が、その日の朝、キッチンの伝言板に書き残したメッセージに支えられ、怒りを愛への気持ちをゆるしへと転換し、活動をはじめたのであった。**International Forgiveness Award** や **Live Your Legacy Award**、**Common Ground Award** を受賞。

2016年6月11日(土) 9:00 AM – 10:00 AM

基調講演およびパネル IIIa

安全保障機構改革：平和構築者が協調的政策提言にかかわる可能性

**Nick Oatley** および **Jerry Lanier** 大使は、軍関係者と地域と連携する改革を必要性にもとづいてすすめるための平和教育者の役割について論議をする。軍や警察は、暴力を防止し、平和を維持するために市民との信頼関係を醸成するために紛争解決の専門家の資質や考えが求められる。**Partners Global** は文民制度や、軍関係、市民社会組織の参加をはかり、協同して生産的な改革をすすめるための対話をはかる手だてを開発した。**Mr. Oakley** は西アフリカや中米における対話にあたり、紛争解決への専門家が自分の先入観や考えをとりのぞくことの経験を示す。**Jerry Lanier** 大使は米国外交官として、軍関係者といかに連携をはかり協同す

るか、事例を踏まえて論議する。

**Nick Oatley**

**Search for Common Ground** で活動をへて、現在は **Partners Global** の運営代表である。ブルンジやルワンダ、リベリア、シエラレオネ、ナイジェリア、チュニジア、インドネシア、ネパールでの活動に携わった。シエラレオネのマノ川地域での安全保障機構改革 (**Security Sector Reform: SSR**) への市民の関与に関するリベリアでひらかれたシンポジウムにも出席。また現在、ナイジェリアやシエラレオネで試行された安全保障統治への市民の関与への枠組み (**安全保障統治の実践と責任のための Security Governance Accountability and Performance – SGAP – Framework**) をつくり、実践してきた。安全保障機構改革に関する **NATO** サミットやとあらたな展開へのヨーロッパ委員会にもかかわっている。

**Jerry P. Lanier, Ambassador**

米国国務省で 32 年間にわたり外交官を務め、最期はスーダン大使で任期をまっとうした。米国テロリズム対策局長を務め、米国国防大学において安全保障に関する講座を教えた経験もある。2012 年、ウガンダ大使として、米国国務省人権賞次席を授与された。アメリカアフリカ軍 (**AFRICOM**) の初代外交政策顧問となり、米国国務省アフリカ局地域安全保障部長もつとめた。

2016 年 6 月 10 日 (金) (1:00 PM – 2:30 PM)

基調講演およびパネル III b

地域における平和と正義：成功事例からの展開

**Grande Lum** は、フロリダ州サンフォード、ミズリー州ファーガソン、メリーランド州バルチモアでの悲劇的な紛争をはじめとする、地域における対立・紛争における調停の経験について述べる。紛争により引き裂かれた状況にたいして、どのように早期に対応し、つづけてどのような処置をするか、対話や招集、研修や諮問、とくにそのための準備についてとりあげる。地域の引き裂かれた状況において、平和と正義をたしかなものとするために分極化をさけるために、多様な関係者がすべきことを検討する。

地域において、人びとが民族や宗教、経済によって分断され、さまざまな課題をかかえ、より悪化する傾向がある。そのようななかで地域における潜在的な不安や課題を、協働して、よりよい状況に転換するための活動を紹介する。地域における紛争にどのように対処するか、紛争解決は悪いものではなく、得るところがあるということの理解もはかる。関係者が集まり、紛争の状況をあきらかにし、対処をすすめることが重要である。紛争解決において調停をどのようにすすめるか、そのための緊張緩和、信頼醸成の役割についても論議する。

**Grande Lum**

オハイオ州立大学モリッツロースクール **Divided Community Project (DCP)** 代表。スタンフォード大学ロースクール **Gould Center for Conflict**



**Resolution** 研究員および教授経験もある。米国法務省の機関である **Community Relations Service (CRS)** 所長にオバマ大統領によって任用された。フロリダ州サンフォード、ミズリー州ファーガソン、メリーランド州バルチモアでの事件が起こり、民族問題が顕在化するなか、法的対応の厳正化にあたった。

#### **Nancy H. Rogers**

オハイオ州立大学モリッツロースクール名誉教授。紛争解決を専門とし、教育や執筆にあたってきた。オハイオ州司法長官やオハイオ州立大学法学部長、ハーバードロースクール客員教授、モリッツロースクール教務部長などの役職を努めた。研究職となる以前は、クリーブランド地方裁判所における (**Thomas D. Lambros** 判事) 法務事務官およびクリーブランド法律扶助協会専門員も務めた。

#### **Robert L. Solomon**

弁護士。オハイオ州立大学多文化共生担当副学長。オハイオ州司法次官として法曹界で働きはじめ、**Franklin** 郡裁判所において補助裁判官をへて、オハイオ州立大学に勤務し、モリッツロースクール多文化共生室責任者となっている。また米国法務省・連邦法務官および、**Ted Strickland** オハイオ州知事のもと 2010 年オハイオ倫理委員会での活動もおこなった。

#### **Carter M. Stewart**

**Draper Richards Kaplan** 財団業務執行役員。最近まで米国連邦法務省に大統領特命オハイオ南部地区司法長の職にあり、犯罪防止を重視し、犯罪予防および、非拘禁措置を促進した。この地域ではじめて啓発活動に着手し、市民と法曹界との相互理解および信頼醸成のためのコミュニティリーダーシップ委員会を組織した。「学校から刑務所へ直通するパイプライン」問題にとりくむ作業部会長なり、司法関係者への民族差別の理解をはかり、刑事司法制度の不公正を是正するために尽力した。

#### **Joseph B. Stulberg**

オハイオ州立大学モリッツロースクール **ADR** (裁判外司法解決) センター長。おもに裁判外司法解決の教授にあたる。全米仲裁協会副会長職にあるばかりなみならず、地域紛争解決プログラムも担当した。米国法務協会による調停のための地域司法センタープログラムの推進にもかかわり、45 州で 8500 人にたいして裁判外司法解決にあたることができるよう研修を実施した。加えて、中央ヨーロッパおよび東ヨーロッパにおいて、行政や **NGO** 関係者に紛争解決プログラムトレーニングを実施してきた **Partners for Democratic Change** と協同で、調停プログラムを計画立案し、はじめてニューヨークの公立学校でも実施した。

#### 基調講演とパネル IIIb

波に乗る：性的暴力および親密なパートナーへの暴力 (**IPV: Intimate Partner Violence**) を減らすためにキャンパス内のエネルギーを制御する

米国をはじめとする世界の多くの大学では、キャンパス性的暴力や親密なパートナーへの暴力を根絶するとりくみが求められている。地域での活動家、また大

学教職員をはじめとする学生などが、このような世論を認識し、ゆれもどしによって機を失う前に、暴力根絶への波をとらえるような展開を求める。大学や全国規模の活動にかかわる関係者から、地域や大学で実行のあるとりくみをどのようにすすめたか、具体的な提言をおこなう。

#### **Alexander Leslie**

クリーブランド性的暴行被害者支援センター (Rape Crisis Center : CRCC) 代表を 10 年間、性暴力防止に携わった。「画期的予防策」として全国的に知られる。青年リーダー育成プログラム (Youth 360 leadership program) を CRCC の支援のもとで創設した。地方の大学がトラウマを念頭においた性的暴行への対応力を高めるよう活動をすすめている。カリフォルニアからジョージアまで、多くの大学において、国内およびドイツにある米軍基地において、軍人にたいしても講演をおこなってきた。

#### **Ann Brandon**

2015 年 10 月より、性暴力根絶オハイオ連合の研修・援助技術担当専門員。それまで 13 年間、北ケンタッキーで二重 (Dual) レイプ問題 / ドメスティック・バイオレンスにたいしてとりくんできた。全米疾病管理予防センター (Centers for Disease Control and Prevention) の助成を得て 5 年間の研究プロジェクトで、性暴力ケンタッキー連合による研修や諮問をすすめ、性暴力犯罪を半減させた。性的暴力とはなにか、非当事者 (傍観者) による行為に注目し、組織能力をたかめ、プログラムをどのように実施するか、戦略的に計画を立案し、人びとがみずから地域を変えていくにはどのようにしたらよいか、といった基本的なことがらを実践的に把握するにいたった。

#### **Shannon J. Greybar Milliken, Ph.D.**

クリーブランド州立大学学生担当学長補佐。15 年間大学において管理職にあると同時に、女性研究者 (大学ではたらく女性) の性的自己決定に関して精力的に研究をすすめてきた。ケース・ウェスタン・リザーブ大学ウェザーヘッド校 (経営学部) 学生部およびクリムゾン大学、デポール大学での勤務経験がある。

#### **Lauren Stoll, LSW**

シンシナティ大学学生活動家。キャンパスにおけるジェンダーに基づく暴力に関する問題に 4 年間とりくんでいる。反レイシズム学生運動 (RECLAIM Peer Advocate) に参加し、シンシナティ大学女性センターでジェンダーに基づく暴力に関する活動をはじめ、被害者が匿名での措置がなされるよう要請することを、学生とともに、大学当局や州、連邦にたいしても政策提言を行っている。2015 年 5 月にジェンダーに基づく暴力にたいして大学のあり方に関するシンポジウムを他の 6 大学からの代表者とともにおこなった。

ワークショップ 2016 年 6 月 10 日 (土) 1:00 PM – 2:30 PM

被害者証言への倫理 : 当事者による暴力やトラウマの証言を平和や和解のために用いるための危険性 (リスク) と課題

暴力事件に関する当事者の証言を学校内外で用いる際の倫理的課題を、被爆者の証言を手がかりに探求する。また、どうすれば被害証言が和解に導くのか、被害者への人道的な配慮とは、また人間の尊厳を欠くようなことに関しても考察する。

**Presenter: Tanya Maus, Wilmington College**

平和教育の効果的なすすめ方と教材開発

まず、フィリピンにおける平和教育の長年にわたる経験にもとづき、フィリピンおよびアジアにおける平和教育の効果的なあり方を検討する。参加者からそれぞれの考えやすすめ方を出しあい、平和教育について経験の浅い者にとっても、またすでに多くを実践している者にとってもともに学び合う機会とする。とくにどのような教材が有効か、これまで作成した教材をもとに学び合う機会とする。

**Presenter: Loreta Castro, Miriam College (Philippines)**

オハイオにおいて大学間の平和ネットワークをつくる

オハイオにある大学における平和学プログラムの地域ネットワークをつくる可能性について話す場を提供する。どなたでも歓迎。資料や教材を交流し、学生の体験の場となり、よりよい活動のための相互交流の場とすることを目指します。

**Presenter: Christina Murphy, The Ohio State University**

地域における平和構築における、ジェンダーの平等および女性の実行のある参加をはばむものは何か

北京行動綱領(1995)では、女性への暴力を撤廃するための枠組みが提示された。20年が経過したが、社会および文化、経済、政治的障壁はいまだに女性のエンパワメントをつまづかせる石となっている。日常における平和教育の到達度はジェンダーに基づく暴力防止を見ることで浮き彫りにすることができる。ジェンダーに基づく暴力防止は、平和教育や、世界でのまた地域での平和を求めることにつながるのかもしれない。アフリカおよびカメルーンにおけるジェンダーに基づく暴力防止の典型事例を紹介する。

**Presenter: Justine Kwachu Kumche, Women in Alternative Action (Cameroon)**

世論の高まりを逃さない：障がいをもつ青年の自己決定をつうじてあらたな語りをつくる

バージニア大学教育学部による I'm Determined Project (IMD) というプロジェクトで自己決定理論(Self-Determination Theory:SDT) が提唱されている。学習者中心のやり方により、青年や親、教育者がちからを得る(エンパワメントされる)若者によるプログラムがなされている。対話を基本とするやり方(ツール)やウェブ・アプリによって、障がいを持つ若者が、社会正義やアクセシビリティ、関係的正義(relational justice), 教育政策、教育・学習環境にたいして発言をするようになる。そのためのツールやアプリを皆で検討する。

**Presenter: Kendal Swartzentruber, Virginia Department of Education**

ブックランチ : 『ピースジョブ:Peace Jobs』 平和のための仕事に就く学生のための就職ガイド

このセッションでは、『ピースジョブ:Peace Jobs』という本をとりあげる。平和構築を職業とするために高校生や大学生の手引きとなるような目的でかかれたはじめてのもので、Information Age Publishing から出版された。

**Presenter: David Smith, Forage Center for Peacebuilding and Humanitarian Education, Inc.**

平和研究への変容的教育方法 : ラウンドテーブルおよび論議、ミニワークショップ

大学で平和研究を将来、教える教員志望の研究者および現職の教員研修となるよう想定されている。大学において平和学を教えるために必須となる知識や実践に役立つものとなっている。「平和学再構築」をテーマに、2014年は平和と正義研究学会と共催であったが、何を教えるかとともに、どのように教えるかが重要であるという結論であった。平和教育の専門家となるには、平和学を学び変容をもたらす方法と理論を身につけることが欠かせない。

**Presenters: Tony Jenkins, The University of Toledo**

恐怖の文化の拡大 : いじめから脆弱なコミュニティを守る

世界の弱い人びとにたいしてなされる暴力および非暴力的侵害に異をとえず、見逃してしまうことに注目する。ワークショップにおける加害者と被害者の役割をつうじて、いずれ立場が反転したときどのようなか体験する。何が引き金となり、相手にどのように振る舞うか省察してみる。ワークショップをとおして、いじめの際に起こる恐怖や相手を服従させる感情を理解する。被害者および加害者のいずれの感情をふまえたいじめ対応について論議する。

**Presenter: Dani Vandiviere, Summit Mediation Group International, Inc.**

紛争マネジメントにおける市民社会の責任 : 女性や子どもへの暴力を発見し、予防する

近年の中東をはじめとする紛争における非暴力平和隊と国際平和旅団での非武装市民保護や修復的正義による平和構築が可能である。暴力の被害者の傷を治し、修復的正義が実現するよう、人びとの声を聞くことが、今日、きわめて重要である。例えば、シリアにおいて現在の紛争が第二次世界大戦時の出来事や、アルメニア虐殺を呼び起こることがあげられる。

**Presenters: John Carlarne, Peace Brigades International; Mel Duncan, Nonviolent Peaceforce; Hans Sinn and Silke Reichrath, Brooke Valley Research for Education in Nonviolence (Canada)**

### 非暴力に関する最近の学問的成果

非暴力によって、地域社会において、また国家にたいして、社会変革がなされる際の基本的な過程に関する理解をはかる。非暴力に関する論争にたいして、非暴力や暴力による国家への闘争記録への分析から、見いだされたこともあわせて提示する。これらの記録から、非暴力が暴力より効果的であること、また成功や失敗の要因がわかる。同時に、高校や大学において非暴力に関して教える際の教材を見いだすことができる

**Presenter: Marc Simon, Bowling Green State University**

### コミュニティエンゲージメント：となり近所での民主化

民主主義は西欧では、もっぱら政治のこととしてとらえられている。ということは民主主義は憲法や選挙、個人の自由といった公共の領域に関することがらとなる。しかし、健全な社会は、政治ほか経済、文化、生態、精神性からなる5つがともに、重要な役割を果たしており、より公正で、安心で、非暴力による社会を目指すのである。このようなホリスティック・デモクラシーをどのように実現するか、市民による対話のあり方を、教室でどのように学ぶかも検討する。

**Presenters: Migdalia Garcia, Alamo Colleges; Larry Hufford, St. Mary's University**

### アクティビズムとはなにか、マルタでの10人の活動家から学ぶ

アクティビズムは平和と正義研究における核心であるが、複雑な概念でもある。特定のコンテキストにおけるアクティビズムの意味や特質をあきらかにすることによって、より意識的また意図的に戦略を効果的にし、インパクトをもたらすことができる。マルタでのアクティビズムをあきらかにするプロジェクトから、参加者がそれぞれの視点で、アクティビズムを吟味する。 .

**Presenter: Barbara Rose, Miami University**

### クリーブランド州立大学地域仲裁オフィス：対話促進による教師の力量向上

クリーブランド州立大学では、学生がインターンとして教育実習や他の実習の際で、対立場面において、状況をきちんと把握し、激高する感情を抑制し、その後どのように対処したらよいか、紛争解決への技法を活用するようにさせた。教師としての自分のありようを省察し、相手を尊重すること、適切な対応によって配慮深くあることができる。

**Presenters: Anne Price and Marcia Roach, Cleveland State University**

### 仲間同士による仲裁(ピアメディエーション)：学校や世界に平和が必要

小学校5, 6年生での仲間同士による仲裁活動にとりくむ、「学校や世界に平和が必要」というトルコの学校でのプロジェクトが成果をあげている。生徒の対立・紛争解決をする力や、生徒の学校への意識や学校生活の質を評価し、プログラムの

成果と課題を考察する。

**Presenter: Nermin Koruklu, Adnan Menderes University (Turkey)**

#### 越境する水争いと協力

水争いが地球の脅威となる理由をあきらかにし、紛争を解決し協力することの必要性への理解をはかる。米国 **Institute of Peace** の助成により、現在、なされているアフガニスタンとパキスタン、タジキスタンの国境にまたがる水問題へとりくみから、より有効なやり方を模索する。

**Presenter: Patrick McNamara, University of Nebraska Omaha**

2016年6月10日(金), 2:50 PM – 4:20 PM

第2言語としての調停: 留学生や移民の子どもたちに第2言語としての英語と対立紛争解決を統合的する授業で教える

1) 非母語英語話者である留学生や移民の子どもたちに対立紛争解決をどのように教えるか、2) 調停・仲裁および交渉のロールプレイや **Getting to Yes** というプログラムが英語や異文化理解、クリティカルシンキング、問題解決を学ぶ授業で有効であること、3) どのように留学生や移民の子どもたちが、英語を母語とする子どもたちと対立紛争解決やピアメディエーションプログラムで学ぶようにするか、といったことを述べる。すぐに実践可能なハンドアウトやアクティビティを用意している。

**Presenter: Barrie J. Roberts, UC Berkeley**

#### Pinging Tea! SM

<http://www.pingingtea.com/>

紛争解決協会(ACR)による最近、注目されている自分でできる調停の方法で、関与者ともあわせて第三者もあわせて実践される。演劇的なやり方を取り、演者としてボランティアを募って、ワークショップをおこなう。ワークショップで感じたことをだしあいながら論議する、そうしたふりかえりから多くを学ぶ。

**Presenter: Conchita F. Serri, Pomona College**

#### 西バルカンでの平和教育

現在、学校全体でとりくむ平和教育のアプローチが実行あるプログラムのために重要である。2008年より、ナンセンネットワーク(**Nansen Network**)にかかわり、モンテネグロやセルビアの教育機関と連携し、教科教育でも平和教育を展開してきた。教室において実践できるように教員研修マニュアルを編纂し、また少年犯罪支援のための内容ももりこんだ。これらの成果と今後の展開について論議する。

**Presenter: Ivana Gaojovic, Nansen Dialogue Centre Montenegro**

#### 地域における健全育成と犯罪予防の方策

オハイオにおいて勉学以外に生徒は学校で何を必要としているのか、オハイオ教

育省の方針と実践について知ることができる。学校や地域でのデータに裏付けされたとりくみを検討する。安全で生徒を大切にする学校づくりや、地域での健全育成にどのように連携するか検討する。

**Presenters: Jill Jackson and Emily Jordan, The Ohio Department of Education**

越境するミディエーター：トラウマの対価

紛争転換および紛争への対処において、トラウマ理解は、きわめて重要である。しかしながら、トラウマに関することが、紛争解決プログラムに取り入れられていないのが現状がある。コロンビアやケニアでの経験から、トラウマへの対処が、プログラムや地域の健全な復興や再建にたいして大きく影響するの。トラウマへの対処を含んだプログラムを検討する。

**Presenters: Mary Jo Harwood and Prabha Sankaranarayan, Mediators Beyond Borders**

青年および成人への対立紛争解決スキル-伝統的教育対修復的正義

ノートルダム大学において **The Take Ten** プログラムは開発され、対立紛争解決のためのスキルを青年や成人に教える展開された。最近では、もともとの修復的正義の原理に立ち戻り、サークルフォーマットで教えている。今回は、修復的正義の原初的な教え方にもとづき、サークルフォーマットがいかに有効かを示したい。プログラムへの評価もなされる。

**Presenter: Ellen Kyes, The University of Notre Dame**

紛争解決教育を都市部の学校で教員養成改革にとりいれる

幼稚園から中学までにおける対立紛争解決教育と平和教育に関する課題をとりあげる。クリーブランド州立大学での 2016 年前期になされる教員養成課程での実践講座で、批判教育学のやり方で、教室や学校を地域との連携をとらえなおす視点を提供する。

**Presenter: Marius Boboc and Glenda E. Toneff-Cotner, Cleveland State University**

対話と多様性プロジェクト：大学での対立・葛藤にとりくむ

ジョージメイソン大学において、いずれの学部であろうと共通にとりあげられるべきトピックにとりくむ対話と多様性プロジェクトに関する哲学と理論、実践の概要を報告する。このプロジェクトは、保守的な州にあって多様な学生が学ぶキャンパスで、民族問題や難民、性的暴力、警察の介入、9.11 による学生や教師の動揺をとりあげるなかで、文化や政治、社会的な理解をもたらした。大学が相互理解のための場所として、またより平和な場となることの制約についても述べる。

**Presenter: Patricia A. Maulden, George Mason University**

元日本兵の語りから対話を促進する

対話を促進するためにナラティブ（語り）は大きなちからとなる。NPO 法人ブリッジピース (BFP) は元日本兵にインタビューをおこない映像記録をつくっている。BFP 代表の神直子は、大学生だった時、訪れたフィリピンで、第二次世界大戦時の殺された村人の関係者から「日本人に会いたくなかった」と言われた。そうした言葉が胸にあり、後に NGO 活動をはじめることになった。高校や大学で映像記録を用いたワークショップもおこなってきており、今後、どのようにワークショップをおこなったらよいか検討が求められる。

**Presenter: Kazuya Asakawa, Tokaigakuen University (Japan)**

意図と影響：マイクロ・アグレッション（発言者には相手を傷つけたり、差別をしたりする意図がなくても、その言葉の中に異なる人種や文化の人に対する偏見や差別が含まれてしまっている「ささいな攻撃」）、ささいで、あいまいな、意図もしないこと。

マイクロ・アグレッションが、学校や地域で、平和や正義、安全保障にどう作用するかあきらかにする。マイクロ・アグレッションはコンフリクトや暴力的な状況において発言や行為に無意識にある偏見について理解することが対立や、紛争、暴力への対処に役立つことになる。

**Presenters: Carole Close, Brianne Otey, Antonio Sanford, Cleveland Metropolitan School District**

瞬時に対立紛争を解消する方法：行動や考えの背景にある意識構造（インサイト）アプローチを役立てる

現実にあらわれる対立や紛争へ対処し、対立や紛争を分析し理解するのに具体的で有効なインサイトアプローチの理論と実践を紹介する。現在までのところ、青年による暴力や暴力への報復を減少させるのに小集団を仲裁するメディエーターや警察関係者、学校関係者が、紛争後の社会における生徒や有職青年の問題行動を理解し、地域の再建において、インサイトアプローチは実践を促進することが知られている。

**Presenter: Megan Price, George Mason University**

CISV (Children's International Summer Villages) 世界中に友だちをつくる

CISV はより公正で平和な社会のための教育を展開し、そのために行動するよう意識を変革をするよう活動している。国際 CISV は平和教育によって人びとを啓発する世界規模の組織であり、友好と協力、理解の促進をはかっている。たがいに友だちになり、友情をきずくことがこのプログラムが目指すものであり、友好と相互理解をとおして平和が可能だということでもある。CISV のスタッフは学校とはことなるが、画期的な平和教育をおこなっているといえる。CISV でもちいられてい



るインタラクティブな参加型のやり方を紹介する。

**Presenter: Chuck Catania, Miami University**

マインドフルを求めて：自分自身のなかに、また地域で平和のコミュニティを形成する

平和と自分が自分であることを、さまざまな場面で、また自分自身のなかで、創造的かつ芸術的な身体の動きのなかで学ぶ。マインドフルネスダンスの歴史から意義を示したのち、実際に体験し、質疑応答をする。マインドフルネスの7つありようをとおして、自分自身にある創造性がやがて開花するのを待つように引き出すことができる。

**Presenter: Sarah Deiger, PsyCare, Inc.**

脅威への診断をこえて：幼稚園から高校や大学、職場での暴力予防や介入、積極的対応、回復を目指して

コロンバイン高校やバージニア工科大学、サンディフック小学校、米オレゴン州郊外ローズバーグの2年制大学、アンプクア・コミュニティー・カレッジなど次々起こる銃乱射事件には何らかの原因がある。犯人は特定の人物を狙い、その人物が見つからないと、同様の生活スタイル（金持ちや、スポーツタイプ、いじめっ子）のものがねらわれた。予防や介入、積極的対応、事後においてホリスティックな対応が求められる。現在なされている試行モデルを、同様な問題を抱える他の学校でも応用できるように、ホリスティックアプローチのそれぞれの段階でなされることがらについて、あきらかにする。

**Presenter: Lisa Pescara Kovach, The University of Toledo**

いかなる状況でも愛を選ぶ

いかなる状況でも、自分がどのように対応するか、選択的に行動することが可能である。怖れを克服するために、きわめてちからづよく、深い愛を選ぶのである。苦難によって、もたらすよい面をあきらかにし、自分のなかになるあらたな勇気を見つけるやり方を探求する。もっとも重要だが、見逃されてきたものに慈悲のころがある。許しという境地に導かれることも大切なことで、自他ともに許しによって回復することができる。

**Presenter: Scarlett Lewis, The Jesse Lewis Choose Love Foundation**

**Saturday, June 11, 10:20 AM – 11:50 AM, Session 3 Workshops**

傍観者 “Thirdsiders” を支援するイーストサイド対立紛争解決プロジェクト

デトロイトにあるウェイン州立大学大学院修士課程はコミュニティビルディングを促進する対立紛争解決のためのサービスラーニングであるイーストサイドメトロディストリクトプロジェクトをはじめた。このプロジェクトでは、地域での委員会が市民の関与において調停をおこない、サービスラーニングの要素を引き出し、

**Thirdsider** の対立紛争への介入の役割をとらえ直している。**Thirdsider** へのとりくみの記録も跡づけながら、その哲学を押さえることで、よりひろい可能性を見いだすことができる。

**Presenter: Bill Warters, Wayne State University**

青年が修復的实践や関係づくりをとおして、変化への動機を引き出す効果的方法  
青少年育成や法律遵守、近隣理解のためにはコミュニケーションが重要だとされ  
ピースサークルは有用である。コミュニケーションをはかるためのピースサークル  
をどのように展開するかを検討する。ピースサークルは、暴力や境的問題によって  
引き起こされる犯罪をかかえる地域において意味のあるとりくみである。

**Presenters: Keysha Myers, Summit County Juvenile Court; Myron Lewis, Summit County Public Health**

#### **A. 多文化、多宗教の状況における平和構築のモデルとしてのピースチャンネル**

ピースチャンネルでは、平和構築のやり方を先住民族の視野からあきらかにし、  
現代的なコンテキストにあてはめて応用できるようにしている。ナーガ族による伝  
統的な平和構築には、先住民伝来のやり方によるさまざまな紛争解決の慣習がある。  
先住民による平和構築では、地域を納めるために調停者や当事者、その他の伝統的  
な役割において、関係者の積極的な関与をはかり、紛争予防もなされる。ピースチ  
ャンネルは、現代、さらに 2000 年以降の 1000 年に千住民族の平和へのいとなみ  
を生かす運動である。子どもや若者、そして大人にも通用する制度的かつ地域に根  
ざした紛争転換のやり方となるであろう。

#### **B. 仏教徒は現代社会においてハーモニーを復興できるか**

今日、南アジアや東南アジア諸国において宗教的少数者は暴力にさいなまれてい  
る。バングラデッシュやミャンマーといった国では政治と宗教が問題化している。  
原理主義や保守的な政治集団が、少数宗教集団を弾圧し、少数者を社会的に侵害し  
ており、そうした抑圧は大きな痛みをもたらし、隣国にも影響を与えている。仏教  
では宗教間の争いはなくすべきで、寛容を醸成し、協調するよう説かれている。仏  
教の教えは本来、さまざまな暴力を理解し、なくすために有用なものである。

**Presenters: C. Paul Anto, Peace Channel (India); Dipen Barua, University of Hong Kong**

#### **キャンパスでの対立紛争解決のためのサステイン・ダイアログ**

ネブラスカ大学オマハ校では、他の大学や地域でも対立紛争解決の手立てとして、  
サステイン・ダイアログを活用する試みをはじめている。ネブラスカ大学オマハ校  
とサステイン・ダイアログネットワークは 3 年間にわたって提携し、学期におよぶ  
小集団でのダイアログ、サステイン・ダイアログの考え方を教える講座、キャンパ  
スと地域をむすぶダイアログのイベントの 3 つにとりくんだ。この事例からそれぞ  
れの大学や地域でどのようにダイアログをこころみるか、課題もあわせて検討する。

**Presenter: Patrick McNamara, University of Nebraska Omaha**

地域資源によって学生のかかわりを深める

高等教育ではコミュニティ・キャパシティ・ビルディングに関与することで、教育目的を達成することができる。教員と学生の集団が、地域の課題にとりくむことが、学習面でも、もっともよい学びとなる事例を示す。一年にわたるプロジェクトは、地域の要請により、移民や日雇労働、トラウマ、民族差別などにたいして、小学校から警察や地域生活福祉部局との連携により、地域でのとりくみを強化するものであった。

**Presenters: Diana Ortiz, Lisa Shaw, Julie Shedd, and Dale Vergott, George Mason University**

高等教育機関内によりよいコミュニティをつくる：質のあるインクルーシブを求める勇氣

高等教育機関では、誰でもアクセスでき、カリキュラムやコミュニティとしてひらかれることが求められる。ながく続く民族的差別、排除を国際的になくしていくために、誰をも包摂するいつくしみのところをはぐくむ社会をきずくのである。勇氣あるリーダーシップのもと、そのようなコミュニティを実現するための実践を紹介する。多様性をはぐくみ、公正を実現するための政策と計画のために何ができるか、衆知を集める。

**Presenter: Elavie Ndura, George Mason University**

国際ニュースを多元的な見方で教える

Mondokio International News ([www.mondokio.com](http://www.mondokio.com))は教育的で、多元的な見方をはぐくむために有用な教材である。影響力のあるメディアが、世界的な出来事にたいしてちがう扱いをしているか、主張や、論点のちがいを見ることができる。オハイオの学校で、Leslie Muhlbach の実践をとりあげる。よりグローバル化し、そのなかで仕事や生活も変化する、また、そのための教育にどう国際ニュースを多元的な見方で教えたらよいか論議する

**Presenters: Brady Calestro, Antioch University Midwest; Leslie Muhlbach, Gahanna Lincoln High School**

文化的アイデンティティの喪失と自死 – いかにパインリッジリザベーションにおける青年が抱える問題

2014年12月から2015年2月にかけて、12才から18才の子どもたちがパインリッジリザベーションにおいて、11人自殺した。歴史的に引き継がれるトラウマや差別、教育の欠如によって、子どもたちは自分たちの文化から引き離され、居場所をなくした世代となった。部族の歴史や文化、伝統をアートセラピーや音楽、ストーリーテリング、ライティングで学ぶ活動をおこなっている。

**Presenter: Karen Posner, John Carroll University**

「なぜあんなにそうなの？」(ニコライ ポポフ)によって東北アジアで平和を学ぶ

現代社会にはびこるあらゆる暴力を防ぐ必要がある。平和的対話を促進し、交流し、信頼醸成が欠かせない。社会では、そのような機会がなかなかない。東北アジアでは、政治的膠着状態や、領土問題、ナショナリズムの台頭がある、一方、歴史的認識への相互理解はなされず和解もすすまない。また、持続的な発展や人間の安全保障もゆらいでいる。日中韓における現状を踏まえ、平和教育の課題を追求する。  
**Presenters: Eri Somoto, Seisen University (Japan)**

国際交流により平和構築に携わる者やリーダーを育成する：典型事例と将来

米国国務省によるこれまでの国際交流プログラムをふりかえり、国際交流プログラムが内外のリーダー育成に果たした意味や役割を検討する。国際交流プログラムは、参加者の関係をきずくことで、国境や文化をこえ、平和や発展に貢献する。このような市民外交が、社会全体でのとりくみ、地域で他者を好ましくうけとめることのできるよう次世代が育つことになる。国や地方自治体での国際交流プログラムが、学校教育制度を補完する役割があることも指摘されている。

**Presenters: Jennifer Clinton, Global Ties U.S.; Christopher Washington, Franklin University; Michelle Wilson, Global Ties Akron**

**Catedra de Paz:** コロンビアにおける紛争後の教育

反政府ゲリラとの抗争は 60 年前からはじまった。Juan Manuel Santos 大統領はこの紛争を終結させるために、2010 に委員会をつくり、コロンビア革命軍 (FARC) ゲリラとの対話をすすめた。2016 年に停戦が成立し、紛争後の和解が課題となっている。このあらたな課題にたいして、コロンビア政府は、コロンビアのすべての学校で平和教育を義務化することとした。

**Presenter: Ramiro Ovalle Llanes (Colombia)**

ジェンダー分析方法

専門家や一般でも、これまでのジェンダー分析の方法では、ジェンダーをめぐる対立争いをあきらかにし、なくすことにたいして不十分ということが知られている。これまでのジェンダー分析のやり方では、ジェンダーの問題を、きちんととらえられないか、とられられたとしてもうわべのみである。さらに重要なのは、対立紛争を分析の枠組みに入れると、より大きなレベルからとらえることができ、あらゆる方面からジェンダー問題へのとりくみが可能になる。WANEP (Women in Peacebuilding Program) による分析ツールを提示する。

**Presenter: Levinia Addae-Mensah, West Africa Network for Peacebuilding (Ghana)**

対立紛争解決教育を米国での学校教育において統合する

平和の文化と対立紛争解決を教師や生徒に教えるために 2002 年より **Women for Development Armenia** という NGO は教員や生徒に平和教育のプログラムを実施した。2015 年までに学校での平和と対立紛争解決教育プロジェクトは、米国の 11 州において、それは米国の 60 パーセントの学校で、およそ 4000 人の教師および 70,000 人の生徒を対象に実施されたことになる。このプロジェクトの評価にあたり、学校における暴力を伴う争いは 72 パーセント減少し、言葉による暴力も 67 パーセント減少し、また間接的な暴力は 50 パーセントとなったとされた。「学校での対立紛争マネジメント」ハンドブックは米国教育研究所によって正式に認められ、全米での枠組として採用された。

**Presenter: Gohar Markosyan, NGO Women for Development**

大学における課外活動によって、より多様なもの見方を得られるようにする

**Cuyahoga Community College** では、地域やキャンパスの対立や争いをなくすために、学生や地域の人びとへの啓発活動として、多様性について学ぶいくつかのイベントを組織している。社会における過激化、過激主義、背景となる心理、メディアの役割に関して、専門家や活動家、宗教関係者によるパネルディスカッションもおこなった。このような活動の成果について論議する。

**Presenters: Megan Erclauz, Susan Lohwater, Shirien Muntaser, Sarah Smith, Amana Zahriyeh, Cuyahoga Community College**

模擬 OAS 総会でのとりくみによって米国青年の民主的価値をたかめる

模擬 OAS 総会は、米州機構(OAS)での政治決定のシミュレーションをするなかで、34 の加盟国の政策や利害を理解することができる。北米南米問わず共通する民主主義や人権、安全保障、開発に関する課題にたいする決議も審議する。合意のためのディベートや交渉、外交のシミュレーションによって民主的価値を促進することができらる。模擬 OAS 総会をこれから実施してみたい方も歓迎する。

**Presenters: Nelly Robinson, The Organization of American States; Kennedy Hatfield, University of the Incarnate Word**

2016 年 6 月 11 日 (土) , 2:50 PM – 4:20 PM

東北アジアでの平和構築：宗教の役割

東北アジアでの平和構築にあって政府の動きはかんばしくないなので、よりよい関係のために市民社会ならびに宗教団体の活動が重要となる。平和を実現するためにどのようなことにとりくんでいるか、のみならず、和解や外交をつなげるための基盤をつくる役割にも注目をする。複雑で配慮を要する問題に、宗教は道徳的倫理的裏付けをもったリーダーシップを発揮する。

**Presenters: Kathy R. Matsui, Seisen University (Japan)**

異文化間教育の促進：地球規模の課題へ地域でとりくむ

文化的多様性の促進に学校はたいせつな役割を果たすものである。教師や管理職

は、異なる文化的背景のある生徒がいるなかで、意図的に、民族差別のような問題をとりあげ、学びを深めることができる。異なった文化にたいしてどのように対処するか、そのためにどのように学ぶかについて概観する。GPPAC Peace Education Working Group のメンバーによるオーストラリアでの多文化教育の調査、実践研究にもとづいている。

**Presenter: Gary Shaw, Department of Education and Training, Victoria (Australia)**

学校での規律を維持するために正義を：偏見への配慮を

幼稚園から小学校にかけての逸脱傾向は教育全般において大きな問題となっている。規律を守り、生活習慣を形成し学校環境を健全にするのに、懲罰を課すことから別のやりかたを多くの教育関係者が模索している。しかし、人間の過失にたいして、とりえわけこれまでとは別のオルタナティブな規律のための指針による正義の視点、からとりくむことに成功していない。マイノリティや障がいを持った学生による規律違反を減少されるために、州におけるまた全国的な水準に照らしてその有効性を検証する。

**Presenter: Kelly Capatosto: The Kirwan Institute of Race and Ethnicity**

公正で社会正義をつらぬくはたらきをするプロジェクトによって教科を統合する学習コミュニティをつくる

コミュニティをつくるのが、変化のために不可欠である。学校や社会でのフォーマルな学習コミュニティ(LC)は正義や公正の点から、どのようなものか、どのような利点があるか論議する。さらに 2015 年から 2016 年にかけて 11 人の分野を異にする教職員がおこなったプロジェクトが、どのようにしてできたのか、またどう展開し、成果をあげたのかを述べる。フォーマルな学習コミュニティは国家によるものだという考えにもとづいている。

**Presenters: Brittany Aronson, Madelyn Detloff, Sheri Leafgren, Rachel Radina, Barbara Rose, Miami University**

高校での英語の授業で問題にもとづく学習(PBL:Problem Based Learning)により正義を探求する

高校での問題にもとづく学習(PBL:Problem Based Learning)の実践である。高校での問題にもとづく学習は、生徒の社会的関わりを促進させ、社会に訴え、事態の改善にとりくんだ。人身売買をテーマに、実態を調べ、解決するためのプロジェクトとなった。

**Presenter: Gillian Hovater, Springfield High School**

国際的な対話：フィッシュボール(金魚鉢)からの学び

難しい問題にたいして、インタラクティブにフィッシュボール(金魚鉢)でとり

くむとよい。フィッシュボールは、対話をゆたかにし、協同でより建設的にとりくむことができ、信頼も醸成する。フィッシュボールでは傾聴も大切な要素となる。

**Presenters: Heidi Arnold, Amaha Sellasie, Sinclair Community College**

**フィールドでの平和教育：組織とインパクト**

フィールドをベースにする平和教育は、平和で公正かつ、安全な国際社会をつくるために基本的なものである。加えて地域に貢献し、また継続的に効果のあるようホリスティックなあり方をどのようにつくるかが根本的な問題である。どのようにプログラムを立案し、実践し、評価するかを具体的に出し合い、それぞれの自分の現場でのあり方を検討する。南アジア、中央アジア、東南アジア、米国での青年対象の実践経験もあわせて共有する。

**Presenters: Alex Cromwell, Lisa Shaw, Julie Shedd, George Mason University**

**Bitpeace：安全保障の金銭的価値**

**Bitpeace** は、よりよい生活を実現する積極的平和をきずくために、財政的に人びとをひきつけるように、人びとが平和や正義や安全保障にたいしてお金を払うようにさせることをもくろんでいる。近年、**Bitwalking** というアプリで、歩くとお金になるアプリがあり、その技術や流行をヒントにしている。人びとが商品を購入し、サービスを得るように、何かよいことをすることによって社会的資本を形成するというアプリが **Bitpeace** である。

**Presenter: John Carlarne, The Ohio State University**

**平和教育学：何を、どのように教えるか**

紛争解決教育や平和を教え、またみずからの平和教育の実践の評価に関心を持つ教員や教育関係者を対象としている。平和教育の実践的原理が、現場においてどのように展開されるか探求する。参加者が、これまでの実践を持ち寄り、たがいに学ぶ場とする。

**Presenter: Heather Kertyzia, California State University Dominguez Hills**

**オンラインによるピアメディエーション**

1980年代半ばより、対立紛争解決教育においてピアメディエーションが米国でもっともひろくとりくまれてきた。また、世界規模でピアメディエーションが知られるようになってきている。米国のピアメディエーションのプログラムが、25パーセントの学校で実施されているという調査結果がある。社会が急速に変化し、現在、オンラインでピアメディエーションにとりくむ必要性が高まっている。オンラインでのコミュニケーションが好まれ、また、オンラインによる公教育の機会が増大し役割も大きくなってきている。

**Presenters:** Karen DeVoogd, Fresno State University; Cynthia Morton, Rockdale Virtual Schools; Judy Tindall, National Association of Peer Professionals; Kristen Woodward, Fairfax County Schools

人間の価値のための国際組織：平和構築のための心理社会面にはたらきかける

最新の研究によれば、個人はおもに、無知とストレスの2点により暴力行為におよぶ。IAHVのプログラムは、説明にはじまり、効果的な呼吸法やグループプロセスや人間関係にかかわる技法、困難な状況への対処法、ディスカッションから構成される。本来は5日かかるものだが、個人の身体や感情、精神性、態度、振る舞いが連関し、存在するために統合されているということ、ホリスティックな視点でとらえるためのさまざまなやり方を修得する。

**Presenter:** Jill Klimpel, The Ohio State University; Nina Sanyal, Art of Living Facilitator

他者のために行動するスキルトレーニング：平和構築の仕事へ

**Upstander Skills Training: Lessons for Peacebuilding Work**  
他者のために行動とは、たとえリスクがあつたとしても、なすべきことをすることである。平和構築という仕事は、リスクもあるが、不正義にたいして挑み、弱い立場の人たちを保護し、コミュニティメンバーがエンパワー(力を得る)するものである。一人であろうと、他の人びとに大きなインパクトを与えることができる。他者のために行動することにより、運動を組織し、ねばりづよく運動を展開し、よりよい変化を社会にもたらすことができる。米国の学校の学生や教師が、他者のために行動できるようになるための研修をどのようにすすめるかを検討する。

**Presenter:** Christa Tinari, Peace Praxis